

## ◎大鏡の特徴

- ・歴史物語 「 鏡物 」 の先駆
- ・道長摂関政治に 「 批判 」 的

## ◎さらに詳しく

成立は平安後期と推定される。鏡は「**歴史を写すもの**」の意。

内容は、紫野の雲林院の「**菩提講**」が始まる前に、大宅世継(190歳、流布本150歳)と夏山繁樹(180歳、流布本140歳)、繁樹の妻、若侍(30歳くらい)らが会い、主に「**世継**」が歴史を語り、他の三人が相づちを打ち補足するのを、そばで聞いていた筆者が筆録するという形をとる。

文徳天皇の嘉祥三年(八五〇)から後一条天皇の万寿二年(一〇二五)に至る、一四代・一七六年間の歴史を物語風に記す。この人物中心の歴史叙述法を、中国の『**史記**』にならって「**紀伝体**」という。

歴史物語の先駆となった『**栄花物語**』が「**一面的な道長賛美**」に終始しているのに対し、戯曲的対話形式という方法で道長の功罪を挙げ、「**批判者の視点**」から語っている。深く「**人間の歴史の真実**」に迫ろうとしており、歴史資料としても価値が高い。この影響を受けて、『**今鏡**』『**水鏡**』『**増鏡**』などの鏡物(『大鏡』を加えて)『**四鏡**』という)が次々と書かれた。

## 雲林院の菩提講

## ●冒頭部

先つころ、雲林院の菩提講に詣でて侍りしかば、**例人**よりはこよなう年老い、うたてげなる**翁二人**、**姫**といきあひて**同じ所に居ぬめり**。

問一 傍線部①の主語は誰ですか。「**筆者**」

問二 同じ傍線部①「侍り」の意味・用法について説明した、次の文の空欄に当てはまる適当な言葉を書き入れましょう。

※「**ラ行変格**」活用補助動詞「侍り」の「**連用**」形で、話し手(書き手)が聞き手(読み手)に敬意を表すために用いる「**丁寧**」語。

問三 傍線部②について、推量の助動詞「めり」を使うことで、断定を避け遠回しにいう婉曲表現を用いています。その理由として最も適当と思われるものを次から選びましょう。

ア 老人たちが普通の人とは異なって、まるで幽霊のように姿が透けて見えたため。

イ 筆者は老人たちのことを直接見ていないため。

ウ 筆者はやや離れたところから老人たちを見ているため。